

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	臼杵地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 平川一春

再生委員会の 構成員	大分県漁業協同組合臼杵支店、臼杵市、大分県中部振興局
オブザーバー	必要に応じて随時

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>大分県臼杵市（臼杵地区）：176経営体</p> <p>主な漁業種類別経営体数：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣り漁業：79経営体（うち兼業、潜水8、採貝採藻5、突磯2、延縄1、建網1、籠1） ・採貝採藻漁業：22経営体 ・小型底曳網漁業16経営体（うち兼業、採貝採藻6、延縄1） ・潜水漁業：16経営体（うち兼業、採貝採藻3、一本釣り2、小型底曳網1） ・延縄漁業：13経営体（うち兼業、一本釣り1、採貝採藻1） ・建網漁業：12経営体（うち兼業、採貝採藻1、突磯1） ・突磯漁業：4経営体（うち兼業、曳縄1、建網1、延縄1） ・小型定置網漁業：4経営体（うち兼業、採貝採藻1） ・たこ壺漁業：3経営体 ・曳縄漁業：2経営体 ・船曳網漁業：2経営体 ・籠漁業：2経営体 ・アオサ養殖：1経営体
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

大分県臼杵市は、九州の東岸で大分県の南東部に位置し、豊後水道北部の臼杵湾に面しており、水産業が盛んな地域であり、釣り漁業、はえ縄漁業、刺し網漁業、中型まき網漁業、船曳き網漁業、小型機船底曳き網漁業、小型定置網漁業、磯突漁業、潜水漁業、たこつぼ漁業などの沿岸漁業だけでなく、リアス式海岸の地形を生かした養殖業も盛んでブリ等の魚類養殖、真珠養殖などが行われている。

大分県漁業協同組合臼杵支店（以下、漁協）は、その臼杵市を管内とする支店である。組合員数は正組合員199名、准組合員188名の計387名であり、平成25年度の海面漁業生産量は789 t、574百万円の生産額を上げている。特にタチウオ釣り漁業の販売体制強化に力を入れており、タチウオの共同出荷体制を平成7年より構築し、福岡魚市への出荷を行っている。平成14年にはこの取組が第41回農林水産祭において天皇杯を受賞するなど大きな評価を受けているとともに、漁業者の所得向上に努めている。

一方、近年、魚価の低迷や主要魚種であるタチウオなどの水産資源の減少に加え、燃油の高騰により、漁家経営を圧迫している。また、高齢化により組合員数が減少しており、地域の水産業は非常に厳しい状況である。

(2) その他の関連する現状等

平成24年7月から、漁協が主体となり「うすき海鮮朝市」を毎週土曜日に開催し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取組を行い、臼杵産魚のPRを行っている。平成25年8月には食堂と加工施設の機能を兼ね備えた「海鮮食堂うすき」を開設し、地域産魚を気軽に食べれる魚食普及の取組や、タチウオやカマガリなどの加工品開発・製造を行い、付加価値向上や魚価の向上を図る取組を実施している。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

1. 漁業収入向上のための取組

- ①価格向上と販路拡大の取組
- ②水産物消費拡大の取組（魚食普及・PR活動）
- ③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組
- ④水産環境整備による生態系全体の生産力向上への取組（平成28年～）

2. 漁業コスト削減のための取組

- ①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進
- ②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

大分県資源管理指針に基づく資源管理計画を策定し、休漁日や体長制限等を設け水産資源の維持・回復及び漁業経営の安定化を図る。

また、持続的養殖生産確保法第4条に基づく漁場改善計画を策定し、計画内容を的確に履行する事により安心、安全な養殖業を生産し、漁業経営の安定と漁家収入の向上を図る。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

取組内容については、取組の進捗状況や得られた成果を踏まえて必要に応じて見直すこととする。

1年目（平成26年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比2.02%向上させる。

①価格向上と販路拡大の取組

- ・漁協は、平成26年7月、漁協、臼杵市、市議会、市観光情報協会、市料飲店組合、生産者を構成員として設立した「うすき海のほんまもん漁業推進協議会（以下、協議会）」を活用して、加工品・特産品の開発や流通・販売ルートの確立、地産地消や魚食普及を推進する取組を行う。この協議会を活用し、大分県東京事務所や東京にある県のアンテナショップ坐来大分が主催する商談会の場を利用し、東京などの飲食店に対する販路拡大を図る。
- ・漁協の主力であるタチウオ釣り漁業者は、現在の共同出荷体制を維持・強化し、福岡魚市への出荷を持続的に行うことで魚価向上・安定を図る。また、「臼杵たちうお」として、地域団体商標への登録を目指し、上記協議会を活用し、県内における知名度向上を図る。
- ・タチウオ釣り漁業者以外の漁業者は、現在タチウオ釣り漁業者が確立している臼杵から福岡魚市への流通経路を活用し、タチウオ以外の漁獲物を取引価格や他地区の漁獲状況などの情報に応じて、県内の市場への出荷だけでなく、福岡魚市へ出荷することに新たに取り組む。これにより魚価向上・安定を図る。
- ・漁協は、市場等ニーズに応える漁獲物の高鮮度処理を目指し漁業者に対する「神経締め」等の講習会を開催を検討する。

②水産物消費拡大の取組

○魚食普及

- ・漁協女性部員は、地元の小中高校生、一般を対象としたお魚料理教室や魚

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>さばき方教室を行い、魚食普及活動を継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、平成24年7月から毎週土曜日に臼杵魚市場で行っている「うすき海鮮朝市」の取組を継続し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取り組みを行う。漁協女性部員は、朝市で客が購入した魚の無料さばきサービスを行い、魚がさばけない消費者も魚を購入出来る取組を行っており、その取組も継続して行う。 ・また、漁協女性部員は平成25年8月から朝市時に営業している「海鮮食堂うすき」の営業を継続的に行い、臼杵産魚を気軽に食べられる機会の提供を行う。 ・漁協は地元産魚の給食への利用を推進し、児童・生徒らに対して魚食普及を行う。（今年度は平成27年1月27日に市内で初めて、カマガリ（標準和名クログチ）を用いた学校給食を旧臼杵市内の小中学校で約3,000食程度提供した） <p>○PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、臼杵産魚の認知度を高めるとともに、販路拡大を図るため、協議会を活用し、臼杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」とコラボした「臼杵産魚のシール」を製作し、販促素材として使用して、臼杵市で水揚げされた水産物のPRを行う。今年度は大分県漁協が経営するおさかなランド明野店・わさだ店の2店舗で本シールの試験導入を行い、その効果把握を行う予定である。 ・臼杵市はタチウオの漁獲量が県内1位であり、また共同出荷体制を構築し、漁業者が一定の品質を守っていることからタチウオの鮮度・状態は高く評価されている。しかし、ほとんどが福岡魚市に出荷されることから地元や県内外での知名度は低い。そこで、漁協は、平成25年9月から県内外から多くの観光客が訪れる石仏観光センターと連携し、臼杵産タチウオを用いた「たち重」の提供を行い、臼杵産魚の高い品質を県内外にPRしていることから、その取組を継続する。 ・漁協は、協議会を活用し、カマガリなどの臼杵市特産魚を積極的にPRし、飲食店に対し利用促進を図る。今年度はPR活動として、平成26年9月に行われたOBS大分放送主催のおおいたB級グルメNo.1決定戦に協議会を主体としたチームがカマガリバーガーを出品し、3位となるなど、大きな成果を得ている。現在、この取組の成果として、カマガリバーガー、カマガリラーメンなどカマガリを利用した料理が市内飲食店で提供されている。 ・漁協は、大分県水産振興祭や臼杵市内で行われるうすき竹宵、旬食フェスタなど多くの人が集まるイベントに積極的に参加し、漁業者の取組の周知や臼杵産魚のPRを行う。 <p>③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組</p> <p>○種苗放流の取組</p> <p>漁協は資源の増大を目的に漁業者自らが行う種苗放流を推進する。地域漁業者は、アワビやアカウニなどの磯根資源については資源保護のための禁漁区を設定したり、クルマエビについては、囲い網により馴致するなど、より効果の高い取組を行う。</p> <p>○資源管理の取組</p> <p>漁業者は大分県資源管理指針に基づく資源管理計画に基づき、休漁日や体長制限等を遵守し、水産資源の維持・回復を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費を基準年より1.48%削減させる。</p> <p>①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</p> <p>漁協は、燃油高騰による漁業コスト圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入をさらに推進する。</p> <p>②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減</p> <p>漁業者は、減速航行の徹底や、係留中の機関の停止、定期的な船底清掃による航行時の抵抗の軽減など省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量の抑制を図る。また、漁協は、県の水産業普及指導員と連携し、水産工学研究所の減速による省エネ効果を把握することが出来るシステムなどを用いて、省エネ操業におけるコスト縮減の可視化を行う。</p>

活用する支援措置等	種苗放流事業（市・県） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 省燃油活動推進事業（国）
-----------	--

2年目（平成27年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比4.04%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>①価格向上と販路拡大の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、平成26年7月、漁協、臼杵市、市議会、市観光情報協会、市料飲店組合、生産者を構成員として設立した「うすき海のほんまもん漁業推進協議会（以下、協議会）」を活用して、加工品・特産品の開発や流通・販売ルート の確立、地産地消や魚食普及を推進する取組を行う。この協議会を活用し、大分県東京事務所や東京にある県のアンテナショップ坐来大分が主催する商談会の場を利用し、東京などの飲食店に対する販路拡大を図る。 ・漁協の主力であるタチウオ釣り漁業者は、現在の共同出荷体制を維持・強化し、福岡魚市への出荷を持続的に行うことで魚価向上・安定を図る。 ・タチウオ釣り漁業者以外の漁業者は、現在タチウオ釣り漁業者が確立している臼杵から福岡魚市への流通経路を活用し、タチウオ以外の漁獲物を取引価格や他地区の漁獲状況などの情報に応じて、県内の市場への出荷だけでなく、福岡魚市へ出荷することに引き続き取り組む。これにより魚価向上・安定を図る。 ・漁協は、市場ニーズに応える高鮮度処理を目指し、県の水産研究部等の協力を得て漁業者に対する「神経締め」等の講習会を開催する。 <p>②水産物消費拡大の取組</p> <p>○魚食普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協女性部員は、地元の小中高校生、一般を対象としたお魚料理教室や魚さばき方教室を行い、魚食普及活動を継続的に行う。 ・漁協は、平成24年7月から毎週土曜日に臼杵魚市場で行っている「うすき海鮮朝市」の取組を継続し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取り組みを行う。漁協女性部員は、朝市で客が購入した魚の無料さばきサービスを行い、魚がさばけない消費者も魚を購入出来る取組を行っており、その取組も継続して行う。 ・また、漁協女性部員は平成25年8月から朝市時に営業している「海鮮食堂うすき」の営業を継続的に行い、臼杵産魚を気軽に食べられる機会の提供を行う。 ・漁協は地元産魚の給食への利用を引き続き推進し、児童・生徒らに対して魚食普及を行う。 <p>○PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、臼杵産魚の認知度を高めるとともに、販路拡大を図るため、昨年度製作し試験導入した臼杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」とコラボした「臼杵産魚のシール」を、今年度より販促素材として広く使用して、臼杵市で水揚げされた水産物のPRを行う。 ・漁協はタチウオの漁獲量が県内1位で品質も高く評価されている臼杵産タチウオを用いた「たち重」の提供を県内外から多くの観光客が訪れる石仏観光センターと連携して行い、臼杵産魚の高い品質を県内外にPRしていることから、その取組を継続する。 ・漁協は、協議会を活用し、カマガリ（標準和名クログチ）などの臼杵市特産魚を積極的にPRし、飲食店に対し利用促進を図る。昨年度、OBS大分放送主催のおおいたB級グルメNo.1決定戦で3位を獲得したカマガリバーガーやカマガリラーメンなどカマガリを利用した料理が市内飲食店で提供されており、その取り組みを継続する。また、今年度からは臼杵特産魚であるレースケ（標準和名：クロアナゴ）に注目し、レースケの知名度向上を図る取り組みとして、観光パンフレットの作成を行い、市内飲食店での利用を進める。現在、寿司店などで「レースケ御膳」が提供される予定である。 ・漁協は、大分県水産振興祭や臼杵市内で行われるうすき竹宵、旬食フェスタなど多くの人が集まるイベントに積極的に参加し、漁業者の取組の周知や臼杵産魚のPRを行う。 <p>③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組</p>
--------------	---

	<p>○種苗放流の取組 漁協は資源の増大を目的に漁業者自らが行う種苗放流を推進する。地域漁業者は、アワビやアカウニなどの磯根資源については資源保護のための禁漁区を設定したり、クルマエビについては、囲い網により馴致するなど、より効果の高い取組を行う。</p> <p>○資源管理の取組 漁業者は大分県資源管理指針に基づく資源管理計画に基づき、休漁日や体長制限等を遵守し、水産資源の維持・回復を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>以下の取組により燃料費を基準年より2.96%削減させる。</p> <p>①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰による漁業コスト圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入をさらに推進する。</p> <p>②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減 漁業者は、減速航行の徹底や、係留中の機関の停止、定期的な船底清掃による航行時の抵抗の軽減など省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量の抑制を図る。また、漁協は、県の水産業普及指導員と連携し、水産工学研究所の減速による省エネ効果を把握することが出来るシステムなどを用いて、省エネ操業におけるコスト縮減の可視化を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>種苗放流事業（市・県） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 省燃油活動推進事業（国）</p>

3年目（平成28年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比6.05%向上させる。

	<p>①価格向上と販路拡大の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、「うすき海のほんまもん漁業推進協議会（以下、協議会）」を活用して、加工品・特産品の開発や流通・販売ルートの確立、地産地消や魚食普及を推進する取組を行う。この協議会を活用し、大分県東京事務所や東京にある県のアンテナショップ坐来大分が主催する商談会の間を利用し、東京などの飲食店に対し、販路拡大を行う。 ・漁協の主力であるタチウオ釣り漁業者は、現在の共同出荷体制を維持・強化し、福岡魚市への出荷を持続的に行うことで魚価向上・安定を図る。 ・タチウオ釣り漁業者以外の漁業者は、現在タチウオ釣り漁業者が確立している臼杵から福岡魚市への流通経路を活用し、タチウオ以外の漁獲物を取引価格や他地区の漁獲状況などの情報に応じて、県内の市場への出荷だけでなく、福岡魚市へ出荷することに引き続き取り組む。これにより魚価向上・安定を図る。 ・漁協は、市場ニーズに応える高鮮度処理を目指し、県の水産研究部等の協力を得て漁業者に対する「神経締め」等の講習会を開催する。漁業者は、積極的に技術の習得に努める。 <p>②水産物消費拡大の取組</p> <p>○魚食普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協女性部員は、地元の小中高生、一般を対象としたお魚料理教室や魚さばき方教室を行い、魚食普及活動を継続的に行う。 ・漁協は、平成24年7月から毎週土曜日に臼杵魚市場で行っている「うすき海鮮朝市」の取組を継続し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取り組みを行う。漁協女性部員は、朝市で客が購入した魚の無料さばきサービスを行い、魚がさばけない消費者も魚を購入出来る取組を行っており、その取組も継続して行う。 ・また、漁協女性部員は平成25年8月から朝市時に営業している「海鮮食堂うすき」の営業を継続的に行い、臼杵産魚を気軽に食べられる機会の提供を行う。 ・漁協は地元産魚の給食への利用を引き続き推進し、児童・生徒らに対して魚食普及を行う。 <p>○PR活動</p>
--	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、臼杵産魚の認知度を高めるとともに、販路拡大を図るため、協議会を活用し、臼杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」とコラボした「臼杵産魚のシール」を製作し、販促素材として使用して、臼杵市で水揚げされた水産物のPRを行う。 ・漁協は、生産量が県内1位で品質も高く評価されている臼杵産タチウオを用いた「たち重」の提供を県内外から多くの観光客が訪れる石仏観光センターと連携して行い、臼杵産魚の高い品質を県内外にPRしていることから、その取組を継続する。 ・漁協は、協議会を活用し、カマガリ（標準和名クログチ）などの臼杵市特産魚を積極的にPRし、飲食店に対し利用促進を図る。カマガリバーガー、カマガリラーメンなどカマガリを利用した料理が市内飲食店で提供されており、その取り組みを継続する。また、昨年度から取り組んでいる臼杵特産魚であるレースケ（標準和名：クロアナゴ）の知名度向上を図る取り組みも継続するとともに、さらに地域飲食店と協議し、新しい魚種を選定し、パンフレット作成など積極的なPRを行う。 ・漁協は、大分県水産振興祭や臼杵市内で行われるうすき竹宵、旬食フェスタなど多くの人が集まるイベントに積極的に参加し、漁業者の取組の周知や臼杵産魚のPRを行う。 <p>③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組</p> <p>○種苗放流の取組 漁協は資源の増大を目的に漁業者自らが行う種苗放流を推進する。地域漁業者は、アワビやアカウニなどの磯根資源については資源保護のための禁漁区を設定したり、クルマエビについては、囲い網により馴致するなど、より効果の高い取組を行う。</p> <p>○資源管理の取組 漁業者は大分県資源管理指針に基づく資源管理計画に基づき、休漁日や体長制限等を遵守し、水産資源の維持・回復を図る。</p> <p>④水産環境整備による生態系全体の生産力向上への取組</p> <p>○魚礁設置・海底耕耘等の水産環境整備 漁協・県・市は、水産生物の動態、生活史に対応した良好な生息環境空間を創出するよう魚礁設置や海底耕耘等の漁場整備を行い、海域全体の生産力を向上させ、水産資源の維持・回復を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費を基準年より4.44%削減させる。</p> <p>①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰による漁業コスト圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入をさらに推進する。</p> <p>②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減 漁業者は、減速航行の徹底や、係留中の機関の停止、定期的な船底清掃による航行時の抵抗の軽減など省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量の抑制を図る。また、漁協は、県の水産業普及指導員と連携し、水産工学研究所の減速による省エネ効果を把握することが出来るシステムなどを用いて、省エネ操業におけるコスト縮減の可視化を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>種苗放流事業（市・県） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産環境整備事業（県・国）</p>

4年目（平成29年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比8.07%向上させる。

	<p>①価格向上と販路拡大の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、「うすき海のほんまもん漁業推進協議会（以下、協議会）」を活用して、加工品・特産品の開発や流通・販売ルートの確立、地産地消や魚食普及を推進する取組を行う。この協議会を活用し、大分県東京事務所や東京
--	--

にある県のアンテナショップ坐来大分が主催する商談会の場を利用し、東京などの飲食店に対する販路拡大を図る。

- ・漁協の主力であるタチウオ釣り漁業者は、現在の共同出荷体制を維持・強化し、福岡魚市への出荷を持続的に行うことで魚価向上・安定を図る。

- ・タチウオ釣り漁業者以外の漁業者は、現在タチウオ釣り漁業者が確立している臼杵から福岡魚市への流通経路を活用し、タチウオ以外の漁獲物を取引価格や他地区の漁獲状況などの情報に応じて、県内の市場への出荷だけでなく、福岡魚市へ出荷することに引き続き取り組む。これにより魚価向上・安定を図る。

- ・漁協は、市場ニーズに応える高鮮度処理を目指し、県の水産研究部等の協力を得て漁業者に対する「神経締め」等の講習会を開催する。漁業者は、積極的に技術の習得し、市場の求めに応じた処理を行い出荷する。

②水産物消費拡大の取組

○魚食普及

- ・漁協女性部員は、地元の小中高校生、一般を対象としたお魚料理教室や魚さばき方教室を行い、魚食普及活動を継続的に行う。

- ・漁協は、平成24年7月から毎週土曜日に臼杵魚市場で行っている「うすき海鮮朝市」の取組を継続し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取り組みを行う。漁協女性部員は、朝市で客が購入した魚の無料さばきサービスを行い、魚がさばけない消費者も魚を購入出来る取組を行っており、その取組も継続して行う。

- ・また、漁協女性部員は平成25年8月から朝市時に営業している「海鮮食堂うすき」の営業を継続的にいき、臼杵産魚を気軽に食べられる機会の提供を行う。

- ・漁協は地元産魚の給食への利用を引き続き推進し、児童・生徒らに対して魚食普及を行う。

○PR活動

- ・漁協は、臼杵産魚の認知度を高めるとともに、販路拡大を図るため、協議会を活用し、臼杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」とコラボした「臼杵産魚のシール」を製作し、販促素材として使用して、臼杵市で水揚げされた水産物のPRを行う。

- ・漁協は、生産量が県内1位で品質も高く評価されている臼杵産タチウオを用いた「たち重」の提供を県内外から多くの観光客が訪れる石仏観光センターと連携していき、臼杵産魚の高い品質を県内外にPRしていることから、その取組を継続する。

- ・漁協は、協議会を活用し、カマガリ（標準和名クログチ）などの臼杵市特産魚を積極的にPRし、飲食店に対し利用促進を図る。カマガリバーガー、カマガリラーメンなどカマガリを利用した料理が市内飲食店で提供されており、その取り組みを継続する。また、昨年度から取り組んでいる臼杵特産魚であるレースケ（標準和名：クロアナゴ）の知名度向上を図る取り組みも継続するとともに、さらに地域飲食店と協議し、新しい魚種を選定し、パンフレット作成など積極的なPRを行う。

- ・漁協は、大分県水産振興祭や臼杵市内で行われるうすき竹宵、旬食フェスタなど多くの人が集まるイベントに積極的に参加し、漁業者の取組の周知や臼杵産魚のPRを行う。

③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組

○種苗放流の取組

漁協は資源の増大を目的に漁業者自らが行う種苗放流を推進する。地域漁業者は、アワビやアカウニなどの磯根資源については資源保護のための禁漁区を設定したり、クルマエビについては、囲い網により馴致するなど、より効果の高い取組を行う。

○資源管理の取組

漁業者は大分県資源管理指針に基づく資源管理計画に基づき、休漁日や休漁制限等を遵守し、水産資源の維持・回復を図る。

④水産環境整備による生態系全体の生産力向上への取組

○魚礁設置・海底耕耘等の水産環境整備

漁協・県・市は、水産生物の動態、生活史に対応した良好な生息環境空間

	を創出するよう魚礁設置や海底耕耘等の漁場整備を行い、海域全体の生産力を向上させ、水産資源の維持・回復を図る。
漁業コスト削減のための取組	以下の取組により燃料費を基準年より5.92%削減させる。 ①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰による漁業コスト圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入をさらに推進する。 ②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減 漁業者は、減速航行の徹底や、係留中の機関の停止、定期的な船底清掃による航行時の抵抗の軽減など省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量の抑制を図る。また、漁協は、県の水産業普及指導員と連携し、水産工学研究所の減速による省エネ効果を把握することが出来るシステムなどを用いて、省エネ操業におけるコスト縮減の可視化を行う。
活用する支援措置等	種苗放流事業（市・県） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産環境整備事業（県・国）

5年目（平成30年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比10.09%向上させる。

漁業収入向上のための取組	①価格向上と販路拡大の取組 ・漁協は、「うすき海のほんまもん漁業推進協議会（以下、協議会）」を活用して、加工品・特産品の開発や流通・販売ルートの確立、地産地消や魚食普及を推進する取組を行う。この協議会を活用し、大分県東京事務所や東京にある県のアンテナショップ坐来大分が主催する商談会の場を利用し、東京などの飲食店に対する販路拡大を図る。 ・漁協の主力であるタチウオ釣り漁業者は、現在の共同出荷体制を維持・強化し、福岡魚市への出荷を持続的に行うことで魚価向上・安定を図る。 ・タチウオ釣り漁業者以外の漁業者は、現在タチウオ釣り漁業者が確立している臼杵から福岡魚市への流通経路を活用し、タチウオ以外の漁獲物を取引価格や他地区の漁獲状況などの情報に応じて、県内の市場への出荷だけでなく、福岡魚市へ出荷することに引き続き取り組む。これにより魚価向上・安定を図る。 ・漁協は、市場ニーズに応える高鮮度処理を目指し、県の水産研究部等の協力を得て漁業者に対する「神経締め」等の講習会を開催する。漁業者は、積極的に技術を習得し市場の求めに応じた処理を行い出荷する。 ②水産物消費拡大の取組 ○魚食普及 ・漁協女性部員は、地元の小中高生、一般を対象としたお魚料理教室や魚さばき方教室を行い、魚食普及活動を継続的に行う。 ・漁協は、平成24年7月から毎週土曜日に臼杵魚市場で行っている「うすき海鮮朝市」の取組を継続し、地元産魚を直接地元で購入する機会を増やす取り組みを行う。漁協女性部員は、朝市で客が購入した魚の無料さばきサービスを行い、魚がさばけない消費者も魚を購入出来る取組を行っており、その取組も継続して行う。 ・また、漁協女性部員は平成25年8月から朝市時に営業している「海鮮食堂うすき」の営業を継続的に行い、臼杵産魚を気軽に食べられる機会の提供を行う。 ・漁協は地元産魚の給食への利用を引き続き推進し、児童・生徒らに対して魚食普及を行う。 ○PR活動 ・漁協は、臼杵産魚の認知度を高めるとともに、販路拡大を図るため、協議会を活用し、臼杵市観光PRキャラクター「ほっとさん」とコラボした「臼杵産魚のシール」を製作し、販促素材として使用して、臼杵市で水揚げされた水産物のPRを行う。
--------------	--

	<p>・漁協は、生産量が県内1位で品質も高く評価されている臼杵産タチウオを用いた「たち重」の提供を県内外から多くの観光客が訪れる石仏観光センターと連携して行い、臼杵産魚の高い品質を県内外にPRしていることから、その取組を継続する。</p> <p>・漁協は、協議会を活用し、カマガリ（標準和名クログチ）などの臼杵市特産魚を積極的にPRし、飲食店に対し利用促進を図る。カマガリバーガー、カマガリラーメンなどカマガリを利用した料理が市内飲食店で提供されており、その取組みを継続する。また、昨年度から取り組んでいる臼杵特産魚であるレースケ（標準和名：クロアナゴ）の知名度向上を図る取組も継続するとともに、さらに地域飲食店と協議し、新しい魚種を選定し、パンフレット作成など積極的なPRを行う。</p> <p>・漁協は、大分県水産振興祭や臼杵市内で行われるうすき竹宵、旬食フェスタなど多くの人が集まるイベントに積極的に参加し、漁業者の取組の周知や臼杵産魚のPRを行う。</p> <p>③資源増加に向けた種苗放流や資源管理への取組 ○種苗放流の取組 漁協は資源の増大を目的に漁業者自らが行う種苗放流を推進する。地域漁業者は、アワビやアカウニなどの磯根資源については資源保護のための禁漁区を設定したり、クルマエビについては、囲い網により馴致するなど、より効果の高い取組を行う。</p> <p>○資源管理の取組 漁業者は大分県資源管理指針に基づく資源管理計画に基づき、休漁日や体長制限等を遵守し、水産資源の維持・回復を図る。</p> <p>④水産環境整備による生態系全体の生産力向上への取組 ○魚礁設置・海底耕耘等の水産環境整備 漁協・県・市は、水産生物の動態、生活史に対応した良好な生息環境空間を創出するよう魚礁設置や海底耕耘等の漁場整備を行い、海域全体の生産力を向上させ、水産資源の維持・回復を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>以下の取組により燃料費を基準年より7.40%削減させる。</p> <p>①漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰による漁業コスト圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入をさらに推進する。</p> <p>②省燃油活動（減速航行等）によるコスト削減 漁業者は、減速航行の徹底や、係留中の機関の停止、定期的な船底清掃による航行時の抵抗の軽減など省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量の抑制を図る。また、漁協は、県の水産業普及指導員と連携し、水産工学研究所の減速による省エネ効果を把握することが出来るシステムなどを用いて、省エネ操業におけるコスト縮減の可視化を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>種苗放流事業（市・県） 漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産環境整備事業（県・国）</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。
※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

取組の効果が十分に発揮されるように、大分県、臼杵市、大分県漁業協同組合との連携を強固にするとともに、うすき海のほんまもん漁業推進協議会において、市内飲食店や観光関係者との連携を強化する。また、県内外の流通関係者についても新たな連携を模索する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
種苗放流事業	種苗放流を行うことにより、水産資源増大を図り、漁業所得の向上・安定を図る。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による操業コストの増加に備えることにより、漁家経営の安定を図る。
省燃油活動推進事業	漁業者グループが省燃油活動に積極的に取り組むことで、操業コストの低減を図り、漁家経営の安定を図る。
水産環境整備事業	生態系全体の生産力の底上げを目指し、水産生物の動態、生活史に対応した良好な生息環境空間を創出することにより、水産資源増大を図り、漁業所得の向上・安定を図る。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。